

(規則) 様式第7 (第7条関係)

# 政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令和5年7月28日

犬 山 市 議 会  
議 長 柴 田 浩 行 様

議員名 大沢 秀教

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和5年7月3日(月) ~ 令和5年7月4日(火) (1泊2日)
(2) 場 所	7/3 習志野市消防本部・7/4 参議院会館 (スポーツ庁)
(3) 形 態	会派 ( 創犬会 ) : その他 ( )
(4) 内 容	別紙のとおり
(5) 成 果 ・ 提 言	別紙のとおり



# 政務活動費成果報告書

犬山市議会 議長 柴田浩行 様

犬山市議会議員 大沢 秀教

下記のとおり、視察調査の成果を報告いたします。

調査日時：令和5年7月3日(月)

視察先：千葉県習志野市消防庁舎

## 調査項目 「消防庁舎の建て替えについて」

### 調査の内容

- ・平成25年3月に「習志野市新庁舎等建設基本構想及び同基本計画」を策定し、市庁舎との災害対策の連携を図る観点から一体的に整備を進めた。仮に消防庁舎単独での整備であったならば、消防総務課が主担当となり、建設事業を進めただろうとのことであった。
- ・旧消防庁舎では、資材の保管場所の確保に苦慮していたことや、大部屋の仮眠室でプライバシーの配慮がされていない点など、様々な課題があった。これらを一気に解決するには面積増が必須だと思われたが、平面計画や出動動線等を工夫することにより、旧消防庁舎と同程度の面積で建設できた。訓練棟施設は、従前施設にはない機能を新たに計画したことから、面積増となっている。しかし、市庁舎と駐車場を共有し、その駐車場を、閉庁時には市内消防団の訓練で使用するなど、限られた敷地の有効活用を図っている。
- ・プライバシーの配慮、セキュリティの徹底など考慮した工夫が随所になされていた。例えば、各階で一般エリアと職員利用エリアを分け、仮眠室エリアでの男女の区別を明確にし、セキュリティライン上の建具には、テンキー錠にて管理する工夫が取り入れられている。

### 成果・提言

- ・犬山市における消防庁舎の建て替えは、まだずいぶん先のことであるが、消防においては、解決すべき問題点を整理し、来る将来の建て替え建設に備える必要がある。私が言うまでもなく、消防の業務は、現在の消防庁舎が建設された時に比して高度化、多様化しており、それに伴った資材や備品、装備等も多様になっている。また、もっと将来に対する備えも必要となる。
- ・建て替え建設が近い将来に必要なのは明確であるが、市費による多額の財政負担という難しい課題がある。消防庁舎は消防行政に特化した施設であり、民間資本の活用や民間の参入を望むことはできない。基金が重要となる。
- ・建て替えにあたっては、本市の東部への出動を最大限考慮した立地となる必要がある。犬山消防の3署所すべてが市の西部にあるのは問題である。



# 政務活動費成果報告書

犬山市議会 議長 柴田 浩行 様

犬山市議会議員 大沢秀教

下記のとおり、政務調査の成果を報告いたします。

日 時 : 令和5年7月4日(火)

訪問先 : 東京都千代田区 参議院議員会館(藤川政人事務所)

**調査事項** スポーツを通じた健康増進について(第3期スポーツ基本計画)

## 調査の内容

参議院議員 藤川政人先生の事務所を訪問させていただき、犬山市の近況等を報告し、国政の状況について情報提供を受けた。親しく意見交換を行った。

スポーツ庁 健康スポーツ課 より、官僚にお越しいただき、「スポーツを通じた健康増進」についてのレクチャーを受けた。



「運動・スポーツ習慣化促進事業」に参画し、成果を上げている事例について多くの紹介と解説をいただき、実際に取り組んでこられた担当者でなければ語れない貴重な経験談を聞かせていただくことができた。加えて、令和5年度からスポーツ庁が促進している「第3期スポーツ基本計画」に基づく「Sport in Life 推進プロジェクト」へのお誘いをいただき、本市の取り組みに大きな期待をいただいた。

写真にあるような車座でのレクチャーであったため、フリートークで意見交換を行うことができ、今後の本市の施策へのヒントを得ることができた。

## 成果・提言

犬山市においても、田中元市長の時代から「健康市民づくり」を全庁的に進める施策を10数年来行ってきた。様々な取り組みはあったが、市民に浸透したかどうかは疑問符が付く状態であるし、全庁的に全部長が会議に出席したところで、結局は担当課が多忙な思いをしているという印象だった。我が会派の中からは、健康推進課長を経験した光清議員が、本市の実践例を挙げながら討議を行うことができた。

私からは、今後の本市の取り組みの参考事例として実際に現地視察を行うことが効果的な事例についての紹介を求め、複数の候補地の事業の解説をいただいた。

国からの補助金によって開始する事業であっても、それをきっかけとして地域の関係機関の連携やネットワークを構築し、補助金に依存しすぎない「自走していける体制づくり」を行うことが肝要であると痛感した。

今後は、持ち帰った資料と情報をもとに、本市が取り組むべき方向を見定め、関係課としっかり意見交換を重ねて、市議会において政策提言ができるかたちに練り上げるための研究から始めていきたい。今回の視察調査を犬山市の健康市民づくりに活かしていきたい。